

科目名	日本史（近現代）	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	吉澤 文寿	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-21-A-1-110042	国際学部A：グローバルな課題に批判的な問題意識をもち、国境を超えた個別具体の問題への認識を深める国際教養および研究手法を体得していること			
授業の目的	この講義は、第1期-19世紀後半から1945年までの日本の歴史について、とくに日本の近隣地域、すなわち台湾、朝鮮、中国、さらには東南アジアに対する侵略の歴史、第2期-1945年以後の日本と近隣諸国における戦争責任、植民地支配責任とそれをめぐる今日の議論を考察し、日本と近隣諸国との建設的な将来を構想することを目的とする。				
学修到達目標	日本のアジア侵略の歴史に関する今日の議論を学ぶことにより、グローバルな課題に批判的な問題意識と建設的な眼差しをもって向き合う実践的な態度が身に付くことを期待する。				
実務経験との関連性					

授業計画	
第1回	講義の概要
第2回	明治維新と沖縄、北海道
第3回	日清戦争と台湾・朝鮮

第4回	日露戦争と韓国併合
第5回	第一次世界大戦期の日本とアジア
第6回	満州事変・日中戦争
第7回	アジア太平洋戦争
第8回	前半のまとめ（第1回レポート提出）
第9回	日本の敗戦と戦後改革
第10回	戦後改革の逆コースと講和
第11回	講和交渉（1950年代）…中華民国、ソ連、東南アジア諸国
第12回	大韓民国・中華人民共和国との国交正常化交渉と沖縄返還
第13回	戦後補償問題の現在

第14回	内なる植民地主義の克服に向けて…沖縄、アイヌ、在日外国人
第15回	第2期のまとめ（第2回レポート提出）
第16回	予備日

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。事前配布資料の予習
【復習】時間・内容	2時間。自主学習により講義内容の理解を深める。

成績評価	
評価基準・方法	半期ごとに提出するレポート（70%）、および授業時に提出するコメントペーパー（30%）で成績判断する。授業中に、提出物に対して講評する。
フィードバック方法	コメントカードについては次回の授業で講評を伝える。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	小林英夫『日本のアジア侵略』山川出版社、2001年、729円＋税。 内海愛子『戦後補償から考える日本とアジア』山川出版社、2010年、800円＋税。
受講上の留意点等	受講にあたり、当該の講義内容を予習することを勧める。学科を問わず、受講を勧める。
JABEE	